

祈りというものは、決して無力ではありません。祈るという行為は、常に祈る対象に心を寄せるといふことです。天皇陛下も常に国民のために祈っておられます。その事実こそが、祈りの効力を証明しているといえます。

我が国は古来より「言霊の幸ふ国」と言われてきたように、声に出して言ったことは実現するという思想があります。祈るだけでなく、それを声に出すことにより、さらにその力は増すということです。それも多ければ多いほど良いのです。かつて神宮でも神宮大麻を頒ける際、千度祓・万度祓といって祓をした回数が多いことを尊んできました。

そこで当社では、此の度の大地震に際し、「大震災復興祈願祝詞」を作成し、ご家庭で奏上していただきました。是非数多くのご家庭で毎日奏上いただき、一日も早く復興を成し遂げられるようお祈りいただければ幸いです。

※(一)内には、特に心に思う人がいれば、その人の名前を入れて奏上下さい。

特にいない場合は(一)を飛ばし、「災害に〜」から続けて奏上下さい。

※あらかじめ詠を読み、その意味を理解した上で奏上下さい。

## 詠

この神棚にお鎮まりになります、言葉に出して申し上げるのも恐れ多い  
天照皇大神、遠野郷八幡宮の大神様方、同様に日々お仕え申し上げておりま  
す神様方の御神前に、恐れ多くも申し上げます。

去る三月十一日に発生した大地震は、大津波や原発の事故等を引き起こし、  
史上未だかつて無いほどの甚大な災害となり、数多くの国民が平常心を奪わ  
れ、将来を心配し、悲しみに沈んでいるために、この災害よりお救いなさ  
り、お助け下さいと大神様方のお力にお頼り申し上げ、お祈り申し上げるこの様  
子を、穏やかに安らかに、気の毒なことだとお聞き届け下さいまして、(家  
族名、被災者名)を始めとして、災害に悩み苦しむ人々に大神様方のお恵み  
を寄り添わせなさって、目を覆うほどの悲惨な状況の中にあっても被災者の  
身も心も健やかであって、一日も早く元の平穏な生活へお返しなさり、そし  
て又、世界中四方八方から被災者を助けようと集まっている思いやりや人情  
に厚い人々の活動が、しっかりと根を下ろし迅速正確に行動し、思いもかけ  
ない怪我や過失もなく御守り下さって、そして又、悲しくもおお亡くなりにな  
った人々の靈魂を、死後の世界も迷うことないよう光指す方向へお導き下さ  
り、現世の事を心配することなく安心して鎮まりまして、これらのことを通  
じてこの日本を、平和で安らかな国と復興しますように、御守り下さり、お  
恵み下さり、幸福をお与え下さいと、言葉足らずで十分ではなく、恐れ多い  
こととは思いますが、申し上げます。

「大震災復興祈願祝詞」

こ かみだな しず ま か かしこ あまてらしますすめおおみかみ  
此ノ神棚ニ鎮マリ坐ス、掛ケマクモ 畏キ 天照皇大神、

とおのごうはちまんぐう おおかみたち また つかえまつ かみたち みまえ かしこ かしこ  
遠野郷八幡宮ノ大神等、及、仕奉ル神等ノ御前ニ恐ミ恐ミモ

まお いに さんがつじゅういちにち お だいじしん いま かつ な わざわい  
白サク、去シ三月十一日ニ起コリタル大地震ハ、未ダ嘗テ無キ災害ト

な あまた ひとびどころまじ うれ なげ あ ゆえ こ わざわい  
成リテ、数多ナル人々心惑ヒ憂ヒ嘆カヒテ有ルガ故ニ、此ノ災害ヨリ

すく たま たす たま おおかみたち みちから すが まつ おろが まつ さま たい やす  
救ヒ給ヒ助ケ給ヘト 大神等ノ御力ニ縋リ奉リ、拜ミ奉ル状ヲ平ラケク安ラケク

あわ きこしめ はじ わざわい なや くる  
憐レト聞食シテ、(家族名・被災者名)ヲ始メテ 災害ニ悩ミ苦シム

ひとら おおかみたち みめぐみ よ たま いた なか あ み こころ  
人等ニ大神等ノ御恵ヲ依サシ給ヒテ、傷マシキ中ニ有リテモ身モ心モ

すこ あ ひとひ はや もと お だ なりわい かえ たま また あめのした  
健ヤカニ有リ、一日モ早ク元ノ平穩シキ生活ヘト返シ給ヒテ、又、天下

よも ひさいしや たす つど こころざしあつ ひとびと はたら たし  
四方ヨリ被災者ヲ助ケムト集ヒタル、志 篤キ人々ノ働キ確カニ、

ゆくりな け が あやま な まも たま また かな みまか みたま  
不慮キ怪我過チ無ク守リ給ヒテ、又、悲シクモ身罷リタル御霊ヲ

かくりよまよ ひかりさ かた かんみちび たま こころやす しず たま  
幽世迷ハズ 光指ス方へ神導キ給ヒ、心安ラニ鎮マラセ給ヒテ、

もち こ ひ もと くに やすくに ふたた おこ たも まも めぐ さきわ たま  
以テ此ノ日ノ本ノ国ヲ安国ト復ビ興サシメ給フベク、守リ恵ミ幸ヘ給ヘト

かしこ かしこ まお  
恐ミ恐ミモ 白ス

一、一般の方が毎日読むことを想定し、なるべく簡潔で判りやすい文章を心掛けた

二、送りがなは、一の理由から万葉仮名ではなくカタカナとした

三、ふりがなも、一の理由から祝詞独自の読み方ではなく一般的な読み方を心掛けた